

昭和村の人物伝(6)

武者 一雄
―ビルマの豎琴の主人公―

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から今回は武者一雄を紹介します。



武者 一雄

武者一雄は小説『ビルマの豎琴』(竹山道雄著)の主人公、水島上等兵のモデルになった僧侶であり、本名は中村一雄といいますが、大正5年(1916)松井田町(現在の安中市)に生まれました。十三歳で仏門に入り、大学卒業後、福井県の永平寺で修行中に戦争に召集されました。

兵役中も僧侶として読経を行い、戦死者を弔っていました。各地を転戦しましたが、最後に訪れたビルマ(ミャンマー)で終戦を迎えます。

終戦後は、イギリス軍捕虜となり、収容所のコーラス隊の一員として、捕虜たちの心を慰める

とともに、死者の供養も行いました。

昭和二十一年に復員、入原にある雲昌寺の住職になります。戦争体験を講演する傍ら、教育にも力を注ぎ、保育所を設立。また、保護司としても青少年の更生を支援しました。

一方、自らの戦争体験を仕立てた『生きていくビルマの豎琴』を出版。また、『ビルマの耳飾り』では講談社児童文学新人賞を受賞。この作品は翻訳され、ミャンマーの文学賞も受賞しました。

平成六年に長男へ住職を譲った後は、「迷惑を掛けた集落や人々にお詫びしたい」と何度もミャンマーを訪れました。慰霊や交流活動などに力を注ぎ、小学校建設の寄附なども行いました。平成二十二年十二月、九十二歳でその生涯を閉じました。

現住職の中村真一さんは「仏教には不殺生の教えがある。兵士として矛盾する行動に悩み、苦しんだと思う。ミャンマーの国民に迷惑をかけたという気持ちを抱え、償いのための人生を送っていた」と、その人柄を語ります。

参考 利根沼田の人物伝
昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



地域包括支援センターだより

地域にとって大切な場所、サロンの活性化を目指して！

～第2回きずなサポーター会議(6月30日)の報告～

今回の会議では、内田病院音楽療法士の高橋由貴子先生を講師にお迎えし「認知症予防運動プログラム コグニサイズ」「ドライブに役立つ脳トレ」「座りながら行えるタオル体操」について、きずなサポーター 39名が楽しみながら学びました。

「何事も継続することが大切!!」と高橋先生。参加したきずなサポーターの皆さんからは「いつもの筋トレとは違って音楽を使ったタオル体操や脳トレがすごく楽しかった」「地域のサロンでもできそう」などの感想が聞かれました。



▲鈴の音に合わせて右折！左折！



▲自分の名前をタオルで書きましょう！



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

